

平成十四年六月六日

太元帥御降臨の儀式

場所 加古藤市自宅座敷

時間 午前十一時

☆ 御仏壇ご本尊
観音菩薩血種遺伝子

☆ 四十二日目
時光永照靈代

☆ 東条英機他二十七名の御靈魂と
靖国の代表御靈魂

☆ 蒋介石閣下御軸
日本人が忘れてならない恩人

☆ 額
六根同時意発の生命帯魂

御神体
天照皇大御神

☆ 神聖画
十三示元津

☆ 未申天神
湍津 宇宙産障壁賀
初代伊邪那身命

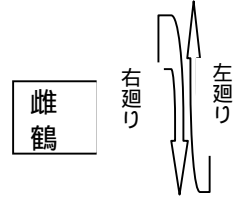
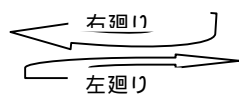
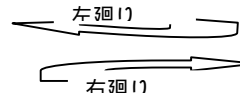
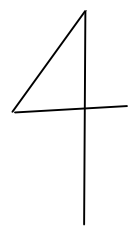
民章和氣の餅を
お供えました

☆
丑寅天神
息津 天津彦根日輪
初代伊邪那岐尊

民章和氣の餅を
お供えました

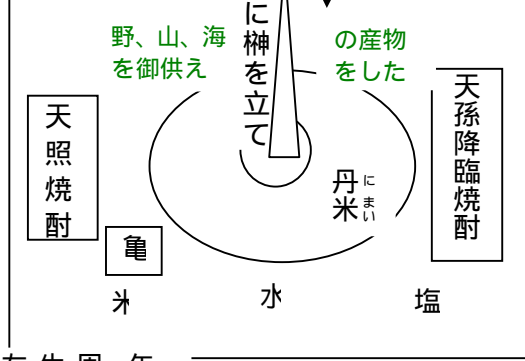
邊津 生産土生命界
化生天神
太元帥明王像写
十八面三十六臂

北



午前十一時と共に、生産土生命界の周りを、天上天津の廻り右に三回、生命界の神祇の廻り、二人腕を組み左に三回廻り、その後、参加者全員北の方向に座し、御身生れ祝詞を奏上いたしました。

床の間



加古自宅の庭で収穫したびわの実を籠に盛りお供えました。

神佛の顕現
生命は何処から来たの
出版お披露目

- 式典はじめに
- 三代目 東核芒種大伝道師
- 午前十一時 お迎えの大義
- 一、天上天津の廻り
- 一、生命界神祇の廻り
- 一、御身生れ祝詞奏上
- 一、昼食
- 一、参加者自己紹介
- 午後三時半解散

世界の救世者に

三代目・東核芒種大伝道師加古藤市殿と妻の澄江様の身体を借りて、神の子として誕生した息子時男さまは、平成十四年四月二十六日、現世の任務を終えられ、宇治の平等院の修築が完成し、ライトアップと共に天津にお引き取りになりました。

この世おば わが世と思う もちつきの

かけたることも なしとおもえば

藤原道長

この世を仏の世と思えば何一つ不足と思うことはない。と言う思いをうたわれたのであり、一つも藤原の栄華の歌ではありません。平等院は極楽浄土の思いを込めて建立されたのでございます。私（三代目・東核芒種大伝道師加古藤市）が靖国の御靈魂と其の家族と同じ御靈魂にならなければ、皆に伝える事は出来ないと言われてお召し上げになりました。

中国の孔子は一番弟子を神に引き上げられた時、神に怨み嘆かれたので、それ以上の人になれなかった。私は此の生命界地球を救う事に専念する事を神に誓いました。

二十七日の早朝、私が木魚をたたき、お経を唱えていた時「木魚とは、人間は植物、動物のお世話になり生活して生きているのです。其の恩への感謝を忘れないように植物の代表を木であらわし、魚介類の魚を代表して刻まれ造られています。野菜、魚介類を食べさせて頂いている感謝を忘れない為なのです。其のことをよく皆に伝える為に木魚があるのです。と初代伊邪那身命よりお知らせがありました。」と時男さまから天津での修行の報告がありました。

平成十四年六月六日芒種の日、太元帥明王さま（天皇家のご先祖の御姿）をお迎えする行事の日、時男さまの四十二日目の日でした。四十九日の法要の日の一週間前でしたので、事始の式典に靈代として参加されました。此の式典に参加した方々が、生命界の周りを天上天津の廻り、右に一人ずつ列を作り三回廻り、生命界神祇の廻り、左に二人腕を組んで三回廻る行事をいたしました。

「今度生まれ変わる時には、孝明天皇の靈魂を蘇らせるため、皇太子ご夫妻、または秋篠宮ご夫妻に宿り、世界の「メシヤ」救世者として生まれ変わらせる」と初代伊邪那身命の御啓示がありました。

時男さまは子供の頃から父母の間で、親の苦しみ悲しむ姿を、何時も見てこられ、自分自身其の間で苦しみ、親にひと言もはむかう事もなく、父親（私）の一番の理解者でございました。此の御啓示を頂いた時は、私の出来ないところの役目をするという事に悲しみよりも、喜びとして変りました。

丑寅の天神は人祖初代伊邪那岐尊が祀られています（滋賀県彦根市武奈山）

未申の天神は人祖初代伊邪那身命が祀られています（滋賀県彦根市男鬼町字護持ヶ谷）

人祖初代伊邪那岐尊・伊邪那身命が天孫降臨したのは元伊勢であります。九州の高千穂の峰に二二ギノ尊が天降りしたという事は誤りです。権力者の勢力の中、空海は人祖を出す事を大変苦労され、密教で太元帥法を以って真言宗の宗教を起し現在に至っています。真言宗は密教ではなく真実の教えを今後していかなければならない事を、今年度の高野山座主をお努めされている西南院の住職様に、4月3日午後6時から1時間お会いしてお伝えいたしました。

平成14年6月24日

三代目東核芒種大伝道師 加古藤市